2015 年 10 月 6 日

「『池上 彰　緊急スペシャル！』インタビュー映像誤使用問題に関する検証および再発防止策」の公表にあたって

放送倫理検証委員会委員長　川端和治

以下に掲げる文書は、２０１５年６月５日放送のフジテレビ『金曜プレミアム　池上 彰　緊急スペシャル！』で、インタビューの映像から聞き取れる韓国語の内容と、その映像に付された日本語の翻訳及び吹き替え音声が全く一致していなかったという事案について、フジテレビ情報制作局が調査班を組織して行った調査と検証の報告書である。ただし、委員会がフジテレビに要望して、固有名詞を削除するなどして公表用に修正していただいた。

委員会は、この事案を審議の対象としないと決定したが、その理由のひとつが、この報告書が、きわめて的確に誤りの発生した経緯とその原因を調査・分析し、また実効性のある再発防止策を策定しており、委員会がさらにヒアリングなどの調査を行って事実関係を解明する必要を認めなかったことにあった。しかもこの報告書は、デジタル技術の発達によって編集が容易になった反面、なんらかの対策を講じなければ、特に分業による制作が行われた時に、思わぬ問題が再び起こりうる危険も生じていることを明らかにしており、委員会は、当該局以外の局においても、ひろく参照され、研修の資料とされるのが望ましいと考え、公表を求めたのである。フジテレビには、公開版の作成にご協力いただいたことに謝意を表しておきたい。

委員会が、この事案を審議の対象としないと決定したもうひとつの理由は、誤って使用された映像を正しい映像に差し替えた番組が自主的に制作されて再放送されたことである。６月の番組の放送後、インターネットで、女子高校生のインタビューで「文化が多くて外国人がたくさん訪れている」と話している韓国語が聞き取れるのに、「嫌いです。だって韓国を苦しめたじゃないですか」という翻訳テロップと吹き替え音声が付けられており、これは嫌韓感情を煽るための捏造ではないかという騒ぎになった。フジテレビへも原語音声と翻訳の違いの指摘や抗議がなされ、またＢＰＯへも多くの視聴者意見が寄せられた。

フジテレビは直ちに韓国語通訳によるチェックを行い、上記の他にも、男性のインタビュー部分で「過去の歴史を反省せず、そういう部分が私にはちょっと・・・」と話している映像に、「日本人にはいい人もいますが、国としては嫌いです」という翻訳テロップと吹き替え音声が付けられていることを確認し、

フジテレビの公式ホームページに、２つの誤った部分と正しい映像の内容を明記したお詫び文を掲載した。また自己検証番組『新・週刊フジテレビ批評』でもお詫びした内容を放送した。

このお詫び文の内容は的確であるが、現在最もセンシティブな問題のひとつとなっている日韓関係についての特別番組で発生した誤りでもあり、これだけでは、マスメディアの姿勢について不信感を持つ視聴者の、翻訳テロップと吹き替え音声に対応する正しい映像素材が本当に存在しているのかという疑惑を解消するような効果は持たないだろう。そのため委員会は、正しい映像素材が真実存在していることを第三者が検証して視聴者の疑念を晴らすことが必要なのではないかと考え、委員会がそのような検証を行う用意があることをフジテレビに伝えた。しかしながらそのような検証は素材映像を第三者に見せることを意味するので、たとえ委員会の委員が限られた条件のもとで行うにしても、問題があるのではないかという当然の疑問が生じた。この隘路を打開したのが、問題のインタビューのシーンを正しい映像に差し替えた番組を再放送するというフジテレビの英断であった。これはまさに自主的・自律的に制作された実質的な訂正放送であり、放送の誤りを放送で取り戻したものとして画期的な意義を持つと言える。

委員会は、誤りが発生した後、その原因を究明し、的確な再発防止策を講じるとともに、視聴者の誤解や不信を解く手立てを誠実かつ適正に講じることこそが、放送に対する信頼を獲得するための最も有効な手段であると考えている。その意味でフジテレビが、今回、自主的・自律的に実質的な訂正放送を行い、かつきわめて的確な報告書の公表に同意されたことは、誤りを犯した後の放送倫理を誠実に実践したものとして賞賛に値すると言えるだろう。ぜひ他局もこれを参考にしていただきたい。